

2024 年 10 月 27 日 午前 10 時 30 分  
聖霊降臨節第 23 主日 主日礼拝  
司会 奈良正太郎  
奏楽 木戸恵美子

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のめき)  
前奏  
招きのことば エフェソ 2:14-19(抜粋)  
讚美歌 51「愛するイエスよ」 一同  
交読詩編 8:1-10(P.14/10)

祈り 司会者  
《関東教区お祈りカレンダー》  
諸川伝道所 筑波学園教会 取手伝道所  
(主の祈り)

讚美歌 223(1-3)「造られたものは」 一同

聖書 旧約 箴言 8:22-31(P.1001)  
新約 黙示録 21:1-4(P.477)

メッセージ『世のはじめ、世のおわり』  
祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 580「新しい天と地を見たとき」 一同

献金 一同  
(献金感謝の祈り)

信仰告白 (カナダ合同教会) 一同

頌栄 29  
祝禱 川上 盾 牧師  
後奏  
報告・紹介

＜招きのことば＞ エフェソ 2:14-19(抜粋)  
実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、敵意を滅ぼし平和の福音を告げ知らせられました。従って、あなたがたはもはや外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族なのです。

《10月礼拝当番》 手塚福治 岩渕デボラ  
大野美子 今村玲子  
村上祐介 廣瀬真理

《今週の集会・行事》  
◎ 本日礼拝後 カレー食堂  
◎ 本日 13:00 CS 午後礼拝 スタッフ会議  
◎ 29 日(火) 10:30 さんびカフェ(沼田宅)  
◎ 11/2(土) 10:00 会堂清掃 D 組  
◎ 11/2(土) 11:00 召天者写真並べ

《次週の主日》  
◎ 主日礼拝 10:30 召天者記念礼拝  
メッセージ『喪失と再生—かけがえのない経験』  
聖書:旧約 創世記 23:11-16(P.33)  
新約 ヘブライ 11:8-13(P.415)  
讚美歌 466(1,4,5), 385, 465, 351(4)  
交読詩編 51:1-11(P.59/55)  
司会:徳島恵子 奏楽:徳江由利  
◎ 墓前礼拝 (12:45 清掃 13:30 礼拝)

《予告》  
◎ 11 月定例役員会 11/10(日)礼拝後  
◎ 聖研祈祷会 11/13(水) 10:30 & 19:30  
◎ 群馬地区大会 11/23(土)10:00 共愛中学

《報告》  
◎ 次週は召天者記念礼拝です

召天者の方々の写真を並べて礼拝をささげます。前日(11/2)11:00 から写真並べをいたしますので、お時間のある方はお手伝い下さい。また当日は墓前礼拝に出かけます。昼食おにぎりを準備します。墓地清掃にもご協力下さい。

◎ 群馬地区大会(11/23)に参加しましょう!  
今年は「笑う!群馬地区大会」。みんなで集い共に笑って、地区の交流を深めましょう。今後の実行委員会は地区を南北に分け、交互に担当します。来年の担当は南か北か...これを当日、ゲーム大会で決めます。参加される方は、掲示板の表にご記名下さい。本日〆切。

◎ クリスマス担当者 募集しています!  
クリスマス行事の企画や準備、特に12/22 の愛餐会のプログラム準備が主な役割です。ご協力下さる方は、掲示板の表にご記名下さい。

◎ 2025 年の司会当番表(調整版)  
各自ご予定下さい。必要な方は修正を。

◎ クリスマス・シュトレーレン、注文受付中  
注文される方は本日中に掲示板の用紙にお名前・個数をご記入下さい。(1 個 3,100 円)

◎ クリスマス・ジャズ・コンサート (11/30)  
宣伝・案内にご協力下さい。チケット希望者は川上牧師まで。

《消息》  
◎ 木俣修さん...脳出血のため入院治療中。しばらくリハビリを含め入院生活となられるようです。ご回復を祈ります。当面お見舞いはお控え下さい。  
◎ 深町淑子さん...手首骨折の治療のため、明日手術を受けられます。ご回復を祈ります。

《先週の集会》  
礼拝堂 オンライン 献金  
主日礼拝  
能登半島水害救援募金 26,000(10/20) 総計 71,850

《メッセージ》『天の国籍、地の日常』川上盾牧師  
エレミヤ 29:4-7, フィリピ 3:17-21(10 月 20 日)  
▼旧約はバビロン捕囚期に活動した「嘆きの預言者」エレミヤの言葉である。周りの「おおかえ預言者」のような安易な楽観論を語らず、捕囚に向かう厳しい現実を包み隠さずまっすぐ語った。今日の箇所はエレミヤがバビロンに捕囚として連れ去られた人々(指導者階級)に向けて記した手紙の一節である。▼エレミヤはバビロンで「家を建て、果樹を植え、結婚して子どもをもうけよ」と記す。自分たちの住む街(バビロン)のことを殊更嘆かず、むしろ街の平和を祈れ、と、民族の危機的な状況を生きる人々に向けて、「日常を取り戻しなさい」と語りかけるのである。▼「日常を取り戻す」—これはコロナ・パンデミックの状況を生きてきた私たちにとっても、切実な課題であった。感染拡大と共に、私たちの日常が次々に破壊されていった。非日常の毎日を過ごす中で、私たちはささやかな日常を過ごすことがいかに大切であるかを痛感した。▼そのコロナの危機も改善され、苦難から解放されたことは大変感謝すべきことである。しかしそれに伴って、あの頃感じた「ささやかな日常のかけがえなさ」を忘れてしまうなら、それは困ったことだ。冷え込んだ経済状況に対して、「今こそコロナ時期を上回る景気の回復を!」と意気込んでいる状況に対し、「それでいいの?」という思いを抱かざるを得ない。▼捕囚の民にエレミヤが語ったのは「繁栄をとりもどせ!」ということではない。「ささやかな日常を大事に求め続けなさい」ということ。このことは現代の私たちにも大切な道筋を示してくれる。▼けれども、その「ささやかな日常を大切に」というメッセージも、時と場合によっては重荷・呪いになりかねない。それを手にしている人(木が立っている人)はよい。しかしそれを手にできない人にとっては焦りやプレッシャーを与えかねない。▼そんな人たちにあって、今日の新約のパウロの言葉は、支えとなる「もう一つの視点」を与えてくれる。「私たちの本国は天にある」とパウロは記す。その本国においては、キリストと同じ栄光の体に変えられるのだ。と、そのような信仰に生きる時、現実の苦難があつたとしても希望を抱くことができるのだ。▼「自分の腹(欲望)を神とする」そのような人々に向けてパウロは、「彼らは恥ずべきものを誇りとする人々であつて、その行き着くところは滅びです」と手厳しい。そうではなく、この世のことには囚われず執着せず、地上の現実にすら縛られない「魂の自由」をパウロは示す。それこそがイエス・キリストから教えられた信仰の果実である。▼本国が天にあるからといって、地上での歩みを軽んじることはない。それもまた神が与えられた大切な恵みである。その地上の生において「功成り名を遂げねば!」と焦るのではなく、ささやかな日常を大切にしたい。しかし一方では天の国籍を思うことによって、この地上の現実にすら囚われず、縛られずに、自由に生きる歩みを求め続けたい。